

第8回庄内緩和医療研究会に参加して

平成25年8月10日に、東京第一ホテル鶴岡にて、第8回庄内緩和医療研究会が開催されました。

国立病院機構 新潟病院副院長 中島孝先生をお招きし、「日本における緩和ケアの誤解を解くために－QOL、健康、延命、尊厳、痛み、スピリチュアリティとは何か－」という特別講演をいただきました。

先生は、現代ホスピス第1号と呼ばれる、英国にある聖クリストファー・ホスピスのデイセンターで学ばれました。「人間はQOLが低下したら、生きる意味がない。」と多くの人が感じてしまいやすいですが、この考え方を乗り越えることが緩和医療には必要です。本来、医療は患者の主観的評価を高めるために行うべきものです。主観的で、評価の難しいQOLの評価法と、その分析方法を具体的に提示して下さいました。「まずは何から取り組めば良いのでしょうか？」という質問に、「笑顔で接すること。そして患者さんの訴えの意味を捉えることから。個人が抱え込むのではなく、チーム医療にしてく組織作りを。」とのアドバイスをいただきました。



新潟病院副院長
中島孝先生

演者



理学療法士
林 知明さん

演者

当院からは、リハビリテーション室所属の理学療法士 林知明さんが、「緩和的リハビリテーション～症例を通じて感じたこと～」という一般演題を発表して下さいました。「私とリハビリしても、張り合いがないでしょうか？」と言いながらも、リハビリを楽しみにしている患者さんとの関わりや、基本動作の介助量が軽減し、自宅へ外出して家族とかけがえの無い時間を過ごせた患者さんなどを紹介していただきました。「リスクが高い状態でも、機能回復は困難であっても、ADLの改善は望める。関わり自体が、患者さんの支援になることもある。」という言葉が印象的でした。

緩和ケア勉強会のお知らせ

- ① 平成25年9月25日（水）18：30～19：40 ※酒田医療センター講堂
「がんの痛みとオピオイド鎮痛薬」大日本住友製薬（株）
- ② 平成25年10月11日（金）18：00～ 日本海総合病院2階講堂
「緩和ケアの実践～疼痛緩和から看取りのパスまで～」東芝病院緩和ケア科部長 茅根 義和先生
「看取りのケア～LCPを導入して～」東芝病院緩和ケア認定看護師 平川 未来先生

緩和ケアの申し込み・お問合せは緩和ケアリンクナースまたはがん診療支援室へ（内線：2118）